

新部長代行のご紹介



放射線科
たかはし たかひろ
高橋 孝博

専門／画像診断
卒業年次／平成6年

かかりつけ医制度推進の取り組み

福井赤十字病院では、「かかりつけ医推進キャンペーン」を10月18日から11月5日まで行いました。健康相談を含んだこの企画は患者さんから大変好評で、期間中の相談件数は45件で、そのうちかかりつけ医紹介に関する相談は65%という結果でした。

かかりつけ推進の意義をご理解いただいた患者さんは多く、当院とかかりつけ医の機能分化に関する理解をより一層深められたことが、キャンペーンの大きな効果であったと受け止めています。

キャンペーンは終了いたしましたが、引き続き相談窓口は2階「地域医療支援センター」で「かかりつけ医推進」を実施してまいります。



新任副部長のご紹介



ストレス心療科
にしもと たけふみ
西本 武史

専門／精神医学、神経生理学、神経内分泌学
卒業年次／平成10年
資格／日本精神神経学会精神科専門医



消化器科
かど たく お
門 卓生

専門／内視鏡診断・治療
卒業年次／平成12年
資格／日本内科学会認定内科医、日本消化器内視鏡学会専門医、日本消化器病学会消化器病専門医



腎臓・泌尿器科
たかた まさゆき
高田 昌幸

専門／泌尿器科領域の悪性腫瘍
卒業年次／平成12年
資格／日本泌尿器科学会専門医



産婦人科
いもと やすふみ
井元 康文

専門／産婦人科全般
卒業年次／平成12年
資格／日本産婦人学会専門医



放射線科
さかもと まさと
坂本 匡平

専門／放射線治療
卒業年次／平成10年
資格／日本医学放射線学会専門医(放射線治療専門医)

放射線科
とよおか まりこ
豊岡 麻里子

専門／画像診断
卒業年次／平成9年
資格／日本医学放射線学会専門医

地域医療連携課

受付時間／平日 8:00～18:30
土曜 8:30～12:30
TEL 0776-36-4110(直通)
FAX 0776-36-0240(専用)

福井赤十字病院

<http://www.fukui-med.jrc.or.jp>
e-mail renkei@fukui-med.jrc.or.jp

連携通信第36号発行
平成22年11月
福井赤十字病院



Partner

Japanese Red Cross Fukui Hospital

パートナー vol.036



福井赤十字病院連携通信



晩秋の日和／北進作

Topics トピックス

NSTサポートチーム活動中

栄養サポートチーム(Nutrition Support Team:NST)による診療を行っています。

NSTでは、低栄養など栄養管理の必要な患者様に対して、医師・看護師・管理栄養士・薬剤師・臨床検査技師・言語聴覚士などのスタッフが連携をとり、それぞれの専門知識を出し合いながら適切な栄養投与法を検討し、栄養状態が改善することを目的として活動しています。NSTが関わることにより、原疾患の治癒促進、感染症等の合併症予防、在院日数の短縮、QOLの向上などの効果が期待できます。

平成22年度の診療報酬の改定では、チーム医療が評価され、NSTサポートチーム加算が新設されました。それに伴い、栄養管理に係る研修を修了したメンバーによるNST専任・専従チームを立ち上げ、より一層充実した栄養サポートができるよう日々頑張っています。

専任・専従チームでは、患者様に食事内容、栄養摂取量の計画が分かるように、栄養管理実施計画(報告)書を作成しあ渡しています。退院・転院時にも診療情報提供書とともに添付しています。

今後とも連携医の先生方と連携を密に、栄養管理についての情報交換ができるべと考へていますので、よろしくお願ひいたします。



福井赤十字病院

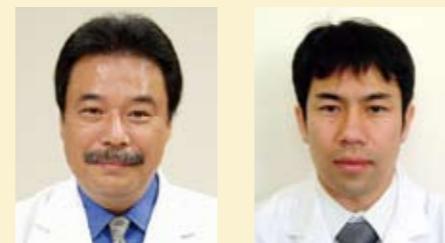
理念

人道・博愛の精神のもとに、県民の求める優れた医療を提供します。

基本方針

- 患者様の権利と意思を尊重し、相互理解に基づく医療を行います。
- 患者様に優しい医療を提供します。
- 医療の安全と質の向上に努めます。
- 地域の保健・福祉・医療機関と連携を進めます。
- 救急医療を充実させ、地域の急性期医療を担います。
- 災害時に積極的な医療救援や救援活動を行います。

当院整形外科の骨粗鬆症治療の現状



整形外科部長
高木 治樹

整形外科
小川 亮三

平素より整形外科の診療にご協力いただき、また貴重な症例をご紹介していただき誠にありがとうございます。当院では以前より数多くの骨粗鬆症患者に対して、加療を行っています。

食事、栄養指導に始まり、Ca製剤、Vit.D製剤、塩酸ラロキシフェン、ビスフォスフォネート(BP)製剤など年齢、性別、骨密度などに応じて、患者に応じた加療を行っています。当然、加療に際しては、的確な評価を必要としますので、用いるtoolも大事になってきます。それらについて、いくつかのトピックをご紹介いたします。

《FRAX:WHO Fracture Risk Assessment Tool》

年齢、BMDやBMI、関節リウマチの既往、喫煙歴、飲酒歴、ステロイド投与歴などを入力することにより、以後10年間の骨折の発生確率を数値として計算することができます。この値がすべてを反映するわけではありませんが、第1次スクリーニングとして重要な役割を占めています。

《ビスフォスフォネート関連性顎骨壊死(BRONJ)》

ビスフォスフォネート(BP)製剤の副作用として最近報告されています。顎骨壊死は咀嚼によるmicrotraumaの繰り返し、口腔内細菌などが原因と考えられています。また、BP製剤による、骨代謝回転を過度に抑制・血管新生抑制作用が関与すると報告されています。当院でもこれまでに3例認めています(放射線治療を施行されている症例を除く)。

先日、BRONJへの指針であるポジションペーパーが発表されました。BRONJに対しての加療、歯科処置におけるBP製剤の休薬、再開など示されています。

歯科口腔外科との連携・患者さんへの指導が重要になります。

以上のようなトピックを取り入れつつ、現在の治療を継続し、必要であれば修正してよりよい治療を推し進めていく所存です。今後ともよろしくお願いいたします。

《ミノドロネート(MIN)》

2009年4月から発売された新しいビスフォスフォネート(BP)製剤を治療に用いています。当院では現在、骨粗鬆症に用いているBP製剤はアレンドロネート(ALN)、リセドロネート(RIS)が中心ですが、それらの薬剤に対して治療抵抗性である場合MINにswitchすることで良好な成績を得ています(2010年9月末時点でのswitch後、BMDが上昇した症例約85%)。



骨塩定量:腰椎BMDをiDXA(GE社)にて測定します。



Lunar EXP-5000 GE社製 Lunar iDxa 骨塩定量装置

《骨塩定量》

当院ではiDXA(GE社)という装置でDXAを実行しています。大腿骨のBMD、と同時にHSA(Hip Structure Analysis)の測定を行う事が出来ます。当院では病診連携を通じてDXAの実行を行えるように対応しております(火曜日を除く)。

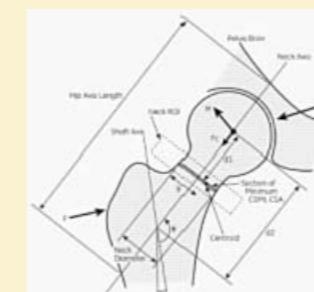
《HSA(Hip Structure Analysis)》

現在、骨粗鬆症においては骨密度を上昇させるだけでなく、骨質の改善について注目されています。HSAは大腿骨頸部を幾何学的に分析し、測定することで骨強度を測定します。

《新薬》

今後、新しいSERMであるBazedoxifene、PTH製剤であるテリパラチド、BP製剤であるイバンドロネート、抗RANKL抗体であるdenosumabなどが発売され、福井赤十字病院でも必要な薬剤は積極的に導入していく予定です。

$$\text{骨強度} = \text{骨密度(70\%)} + \text{骨質(30\%)}$$



HSA:大腿骨を幾何学的に分析することで骨強度を計測します。

